

子どもの本だな 52

このページは子どもたちにすすめたい本をとりあげています。本を選ぶときの参考にしてください。

ゆきのひ

エズラ・ジャック・キーツ ぶん・え  
きじま はじめ やく (偕成社)

冬のある朝、ピーターが目を覚ますと、雪がたくさん積もっていました。マントを着て外にとびだしたピーターは、きゅっきゅっと雪に足跡をつけたり、棒で筋をひいたり。小さすぎてまだ雪合戦には入れないので、ピーターはひとりで雪だるまを作り、でっかい雪の山からすべりおりました。雪を何度もすくってかためた雪だんごは、明日遊ぶつもりでポケットへ。ところが、寝る前には、ポケットはからっぽになっていました…。

雪の中での冒険をお母さんに話し、心の中で何回も何回も思い出すピーター。幼い子どもの雪へのあこがれや雪遊びの喜びが、ピーターの目を通して丁寧に語られます。色鮮やかなカラージュの絵はデザイン風で、雪遊びのわくわくする気持ちにぴったりです。(池田)

雪は天からの手紙 中谷宇吉郎エッセイ集

池内 了 編 (岩波少年文庫)

ある年、「立春の日に卵が立つ」という記事が新聞紙面をにぎわしました。上海では古書にこの記述が発見され、立春の前に卵の値段が跳ね上がるということも起こりました。なぜ立春に卵が立つのかと聞かれた日本の科学者は様々な理由をあげます。本当はどうなのか、と考えた著者は実際に試し、立春だけでなく集中力をもってすれば卵は一年中立つことを証明しました。「立春の卵」

ほかに、霜柱の研究をした女子高生たちの観察記録、稲妻の形や線香花火のできかたを実験でときあかす話など、身近な科学に関する話がおさめられています。

雪の結晶の研究で有名な物理学者中谷宇吉郎。「不思議を解決するばかりが科学ではなく、平凡な世界の中に不思議を感じること重要な要素」という科学観は子どもたちの好奇心こそが大切だと教えてくれます。高学年から。(西村)

2月	3月	2・3月の移動図書館 (いずれも木曜日です)				
8日	8日	塚森 地域内 10:30~10:50	沖代 地域内 11:00~11:20	福地(三反長) 地域内 14:30~14:50	米田 公会堂 15:00~15:20	竹広南 公民館 15:30~15:50
15日	15日			原池団地 公民館 15:00~15:20	山田 掲示板前 15:30~15:50	原 太田東地区農村 交流センター 16:00~16:30
22日	29日	広坂 公民館 10:30~10:50	上太田 公民館 11:00~11:20		太子 ニュータウン 公民館 15:30~15:50	吉福 公民館 16:00~16:30

13歳からの読書

『トム・ソーヤーの冒険』を読んで

- ・日時：2月11日(日)  
14時~15時30分
- ・対象：中学生以上(要申込)
- ・会場：図書館・読書会室
- ・準備：当日までに本を読んでください。

『トム・ソーヤーの冒険』  
マーク・トウェイン 作  
石井桃子 訳 (岩波少年文庫)  
アメリカ南部ミシシッピ川沿いの  
小さな村で海賊ごっこや洞窟探検…。  
冒険に明け暮れるトムと仲間たちとの物語

『私はドミニク』 『国境なき医師団』そして『国境なき子どもたち』とともに  
— 人道援助の現場でたどってきた道のり — ドミニク・レギュイエ 著

金 珠理 訳 合同出版 213頁 2017年11月刊 1,500円 (請求記号) 369.9

知人にすすめられて出かけた「国境なき医師団(MSF)」のリクルート説明会。医師でも看護師でもない自分ができることがあるのかと思いつつ、著者は連絡先を書いた。やがて、事務方を受け持つアドミニストレーターとして、エチオピアに派遣された。飢饉にみまわれた何万もの人が押し寄せ、難民キャンプは生活音も子どもの声もせず、のしかかる死のような静寂に包まれていた。別のキャンプに移動すると、若い母親が息を引き取ったばかりに見える赤ん坊を抱いてやってきた。女医が赤ん坊を取り上げ、両手で包み込み、親指で心臓マッサージを続けていると、赤ん坊が息を吹き返した。人がなし得る最も尊い行為に立ち会った著者は、医師や同僚のために全力を尽くすことを誓い、やるべきことをすべてやってきた。

東京事務所開設のために来日して3年後の1995年、神戸を大地震が襲った。著者たちは、志願してきた医師や看護師を保健所に取り次ぎ、不法滞在していた外国人被災者や仮説住宅に暮らす高齢者を支援し続けた。同じ頃、一般公募した子どもたちに、世界各地のMSFの活動現場取材してもらった「子どもレポーター」を開始した。

50歳になった時、MSF日本を辞し、信頼する友人たちと立ち上げた「国境なき子どもたち(KnK)」の活動に専心することにした。大災害や紛争地での医療援助を主とするMSFではできなかった、貧しい子どもたちへの支援、中でも、青少年の支援に乗りだした。ベトナムのストリートチルドレン、フィリピンのスラム街や墓地で寝起きする子ども、カンボジアの刑務所に収容されていた子どもたち。過酷な状況の下で生きてきた子どもたちに、レクリエーションを提供し、彼らの話を耳を傾け、彼らが望むならばKnKの施設で受け入れ、学校へ通わせた。「自立」しなければ生きてこれなかった子どもたちに、寄り添い、人に頼ってもいいということとを教え、彼らが得ることができなかった子どもらしい時間を提供し、将来を思い描いてもらいたいと考えたのだ。スマトラ、パキスタン北部、東北の被災地、シリアなどの紛争地で彼らの活動は続く。

抑制のきいた筆致の報告と思索から、他者を受け容れ、尊重し、ともに成長しようという著者の声が聞こえる。

(片木)

2月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	<del>6</del>	7	8	9	10
11	12	<del>13</del>	<del>14</del>	15	16	17
18	19	<del>20</del>	21	22	23	24
25	26	<del>27</del>	<b>28</b>			

3月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	<del>6</del>	7	8	9	10
11	12	<del>13</del>	14	15	16	17
18	19	<del>20</del>	21	<del>22</del>	23	24
25	26	<del>27</del>	28	29	30	<b>31</b>

- \* カレンダーの×印は休館日。
- \*  は館内整理日。返却のみ受けつけます。(10:00~17:00)
- \* 開館時間は10時~18時。金曜日は20時まで開館。

地下水

ブレイデイみかこさんの本が図書館に入れば必ず読む。私がこの著者の本を読んでいることを知り、自身も読まれた利用者のK氏は、ブレイデイさんの新聞記事があれば、切り抜きを持ってきてくださる。

「この人はえらい人やで。」と、『何が私をこうさせたか』(岩波書店)を手にK氏。著者の金子文子が何者かも知らず、「はあ。」と気の抜けた言葉しか出てこない。岩波書店のPR誌でブレイデイさんが金子文子に触れており、そこから『何が私をこうさせたのか』につながったようだ。せつかく引き合わせてもらったからと、持ち帰ったが、二十三歳で獄中死した著者の語る人生がなんとも重く、どこかで救いがたいものかと思え、どこかきんがな教育を受け、よい出会いがあれば、なにか大きな仕事で来たはずの人だろうなと強く感じた。

がらりと変わり、ここ数日、『トム・ソーヤーの冒険』で楽しい時間を過ごしている。あまりに楽しすぎて、同じトウエインの『王子と乞食』も同時に読もうとしたがなかなか進まない。トム・ソーヤーの力が強すぎるのか、『王子と乞食』の乞食の生活に、金子文子をも呼び起こされるからなのか。次は『ハックルベリー・フィンの冒険』だ! (竹内)

